

 フジ日本精糖株式会社

証券コード：2114

第 **100** 期
中間株主通信

2022年4月1日 ▶ 2022年9月30日



企業理念

私たちは、「夢のあるたくましい会社」を目指し、健康な生活づくりに貢献します。

経営方針

- ① 顧客第一主義の徹底
- ② 会社の発展と共に社員が成長する企業文化の形成
- ③ 公正で透明性のある企業活動の推進
- ④ 社会に評価される企業価値の向上
- ⑤ 社会に貢献する企業市民活動の充実

CONTENTS

トップインタビュー	P 2
セグメント別の状況	P 5
連結財務諸表	P 7
会社概要／株式情報	P 9
トピックス	P10
インフォメーション	裏表紙

● 表紙の写真について

表紙の写真は、当社「写真同好会」の辻田 和人が撮影した作品です。



撮影地 - 富士宮市原 - 「晩秋の彩」

トップインタビュー

事業環境の変化を克服し、さらなる成長の実現へ。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに当社第100期第2四半期累計期間（2022年4月1日～2022年9月30日）における営業状況をご報告し、さらなる成長に向けた事業展開と今後の見通しについてご説明させていただきます。

Q 当上半期の営業状況についてお聞かせください。

A コスト高による利益の圧迫を受けながらも、機能性素材事業が牽引し、増収・増益を果たしました。

この上半期は、前年度と比較してコロナ禍による社会・経済活動に関する各種制限が緩和され、当社の事業環境においても取扱商品に対する需要の回復が進んだ一方で、原材料・エネルギー価格の高騰や物流費の上昇などの悪影響が広がってきました。

主要セグメントの営業状況を振り返りますと、精糖事業は、販売数量が前年同期をやや下回りましたが、販売価格の上昇により増収となりました。一方、利益は海外原糖相場の上昇およびエネルギー、資材、物流などのコスト増加を販売価格に十分反映するに至らず、減益を余儀なくされました。

機能性素材事業のうち「イヌリン」の国内販売は、新たにアイス製品や乳製品への採用を獲得し、チョコレート製品向けなど既存採用分野の継続納入においても販売数量を伸ばすことが出来ました。東南アジアを中心に展開する「イヌリン」の海外販売では、主として健康食品向けの販売数量が増加しました。「イヌリン」の製造拠点であるタイ連結子会社 Fuji Nihon Thai Inulin Co., Ltd. (以下FTI社) では、製造数量の増加により稼働率がアップし、コスト圧縮が図られたことで採算性が大きく改善し、連結業績の向上に寄りました。なお、FTI社は現在、設備更新による生産増強を早急に進めており、引き続き「イヌリン」の需要拡大に積極的に取り組んでいきます。



代表取締役社長 櫻田 誠司

連結子会社ユニテックフーズ株式会社では、ユーザーのコンビニエンスストア向け商材の需要回復を受けて、主力のゼラチンやペクチンが販売数量を大きく伸ばしたことに加え、介護食向けやアスリート向けの販売展開も軌道に乗り、全般的に好調に推移しました。

結果として上半期の連結業績は、各セグメントの増収により売上高111億5百万円（前年同期比11.9%増）を確保し、利益面は機能性素材事業が牽引する形で、営業利益9億93百万円（同33.0%増）、経常利益11億94百万円（同39.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益9億62百万円（同28.2%増）と増益を達成しました。

Q ユニテックフーズ株式会社を中心とする新たな展開をご説明願います。

A ビジネスモデルのバリエーションを広げ、加工のノウハウを活かした協業スキームの中で成長機会を捉えています。

ユニテックフーズ株式会社は、これまで主体としてきた天然素材の販売だけでなく、加工のノウハウを活かした高付加価値製品の製造・販売へと事業分野を拡大すべく、各種取り組みを進めています。

2022年10月、当社とユニテックフーズ株式会社は、ペクチンのサプライヤーとして過去50年にわたりパートナーシップを築いてきたCargill (CSST Asia) 社 (以下カーギル社) と3社業務提携の覚書を締結しました。本件提携は、日本およびアジア太平洋地域における各社製品の製造・販売活動を拡大、加速すべく、お互いの強みを活かした協業展開を図るものです。

3社は今後、各社が持つノウハウの共有と人材交流を深めながら、ユニテックフーズ株式会社とカーギル社のラボ設備を活用した製品・技術開発を推進し、それぞれの生産ラインを効率的かつ柔軟に運用することで、市場・顧客ニーズに対応した製造を行います。販売面では、各社の機能性素材やプレミックス製品について、日本・アジア市場における相互流通チャネルを活用した拡販を開始します。

ユニテックフーズ株式会社を中心とするもう一つの動きは、2022年1月に締結した双日株式会社ならびにロイヤルホールディングス株式会社との戦略的業務提携にもとづく植物肉事業への参入です。ユニテックフーズ株式会社が開発した植物肉

「NIKUVEGE (ニクベジ)」は、優れた肉感や旨味・風味が評価され、ロイヤルホールディングス株式会社が運営するレストラン業態のメニューに採用されており、引き続き協業スキームに則った展開を拡げるべく、新たなメニュー開発や家庭用ミールキットなど小売販売向けの商品開発に取り組んでいきます。

2022年6月には、ユニテックフーズ株式会社の連結子会社として設立した株式会社Tastableに当社と双日株式会社が共同出資し、植物肉を中心とする事業展開の加速に向けて体制を整えました。今後、株式会社Tastableを通じて新素材に関する研究開発や、国内・海外市場への販売を強化するとともに、植物肉事業と親和性の高いビジネス機会の創出に注力していく所存です。

Q 通期業績の見通しと下半期の取り組みをお聞かせください。

A 原材料価格の高騰や各種コストの高止まりが当面続くものと想定し、期初の通期業績予想を継続します。

冒頭に述べました通り、上半期は好業績を取めることができたと考えています。しかしながら下半期の事業環境は、ウクライナ紛争や中国をはじめとしたポスト・コロナの需要回復期待などで、原材料価格の高騰や各種コストの高止まりが当面続き、特に利益面に与える影響については、予断を許さない状況であると認識しています。

そのため通期業績については、現時点で期初の予想数値を変更せず、売上高211億円 (前期比5.0%増)、営業利益13億500万円 (同15.9%減)、経常利益15億500万円 (同19.2%

減)、親会社株主に帰属する当期純利益11億500万円 (同28.8%減) としました。

下半期の精糖事業は、入国規制の緩和によりインバウンド消費の回復がある程度期待される中、さらなる需要を捉えて販売数量を拡大し、上半期の遅れを取り戻してまいります。機能性素材事業は、FTI社における「イヌリン」の増産体制の早期構築に努めつつ、さらなる販売強化により業績の底上げを図ります。ユニテックフーズ株式会社は、引き続き需要の回復を取り込みながら、健康・介護食向けなどの重点分野に注力してまいります。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A サステナビリティ推進体制を整備。事業活動を通じて社会課題を解決し、豊かな未来の実現に貢献します。

当社は、ESG/SDGs経営の実践において中心的な役割を担う「SDGs推進委員会」を発足し、サステナビリティ推進体制を整備しました。この上半期は委員会メンバーへの研修を実施し、下半期よりサステナビリティ基本方針の制定をはじめとする活動を本格始動してまいります。

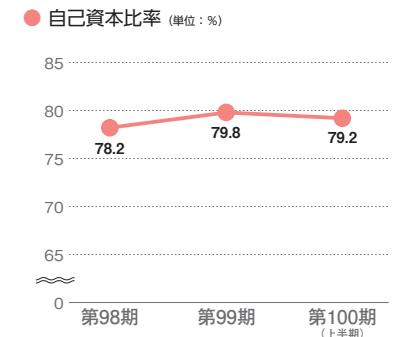
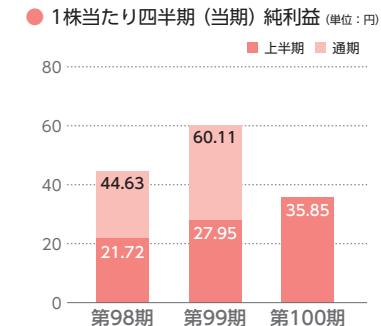
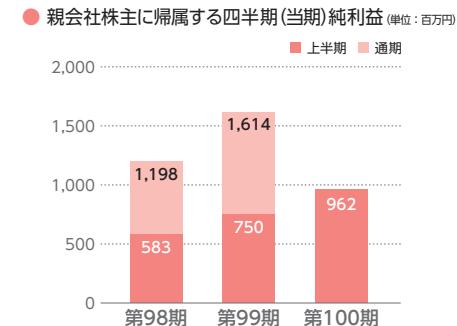
事業活動を通じた社会課題の解決に向けて、これからの当社が目指すべきこと、行うべきことを見定め、取り組みを進めていくことで豊かな未来の実現に貢献し、世の中に必要とされる企業として存続してまいります。

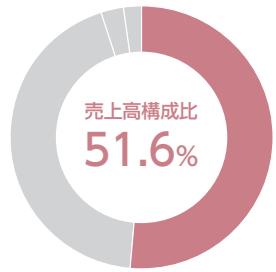
株主の皆様におかれましては、今後とも長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。



連結業績ハイライト

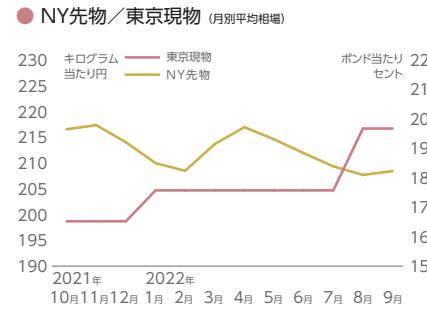
CONSOLIDATED FINANCIAL HIGHLIGHTS





精糖事業

事業内容：精製糖、砂糖関連製品の製造販売を行っております。



精糖事業につきましては、海外原糖市況はニューヨーク先物市場が期初19.42セント（1ポンドあたり）で始まり、ブラジルでのサトウキビ压榨開始の遅れやロシアのウクライナ侵攻による原油高により上昇が続き、4月半ばには20.51セントを付けました。

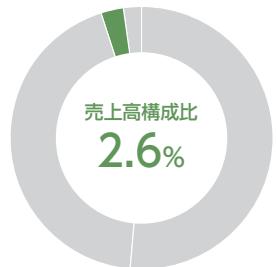
しかし、コロナ禍による世界経済の低迷から需給緩和の憶測が広がると、上昇圧力は一服し、さらにブラジルのガソリン価格引き下げによる砂糖への生産シフトや、ドル高が進むと反落に転じ、17セント台まで下落しました。その後は白糖需要拡大により下支えされ、粗糖相場も底堅く推移し、18.71セントにて当上半期末を終了しました。

期初	高値	安値	期末	平均
19.42	20.51	17.20	18.42	18.71

一方、国内製品市況は東京現物相場（日本経済新聞掲載）204円～205円（上白大袋1キログラム当たり）で始まり、海外原糖相場高騰および工場コスト高騰により8月5日に12円上昇し、216円～217円となり当上半期末を迎えました。

製品の荷動きとしましては、資源高による消費低迷などの影響で販売数量は減少しました。利益面では海外原糖相場の上昇に国内製品市況が追い付かず、さらに円安やエネルギー価格上昇による製造コスト、物流コストが上昇した結果、減益となりました。

この結果、売上高5,735百万円（前年同期比7.2%増）、営業利益502百万円（同12.4%減）の増収減益となりました。

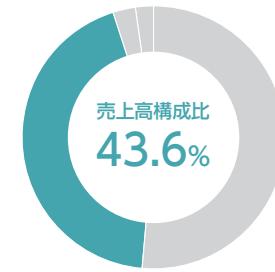


不動産事業

事業内容：当社が所有する土地建物の賃貸およびその他不動産関連事業を行っております。

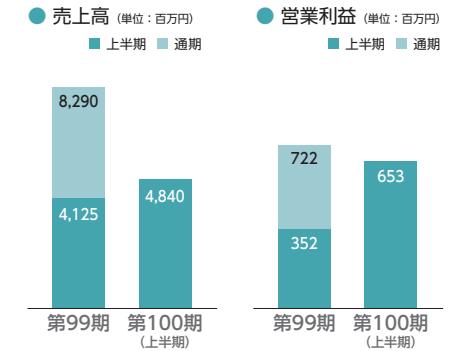


不動産事業の業績は、売上高286百万円（前年同期比0.2%減）、営業利益266百万円（同0.2%減）の減収減益となりましたが、引き続き安定収益確保に貢献いたしました。



機能性素材事業

事業内容：機能性食品素材、食品添加物、切花活力剤等の製造販売、果実加工原料の販売を行っております。

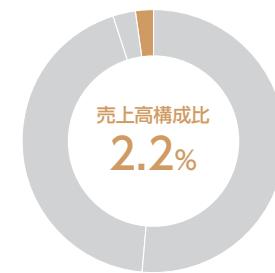


機能性素材事業につきましては、機能性食品素材「イヌリン」は、昨年に続いて新たな採用分野であったチョコレート製品向けの継続納入や新規採用としてアイス向けなどを獲得した結果、販売数量を伸ばしました。タイのイヌリン製造拠点である連結子会社Fuji Nihon Thai Inulin Co., Ltd.においては、製造数量の増加により稼働率がアップし、コスト圧縮が図られたことで採算性が大きく改善し、連結業績の向上に寄与しました。

切花活力剤「キープ・フラワー」は、昨年の巣ごもり需要の反動により、家庭用製品の販売が前年割れの減収となりました。

連結子会社ユニテックフーズ株式会社は、CVS商材向けのゼラチンの販売が大幅に改善し、さらに主力商品であるペクチンなどの天然添加物素材の販売も回復した結果、増収を確保することができました。

これらの結果、売上高4,840百万円（前年同期比17.3%増）、営業利益653百万円（同85.2%増）の増収増益となりました。



その他食品事業

事業内容：タイ国においてパンの製造販売を行っております。

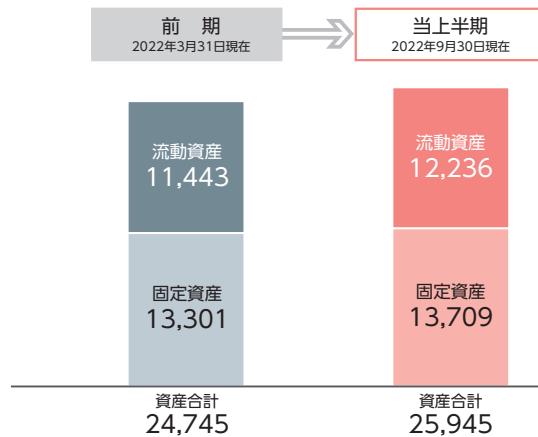


その他食品事業につきましては、タイでの食品関連事業が中心ですが、売上高242百万円（前年同期比46.9%増）、営業利益18百万円（同396.8%増）の増収増益となりました。

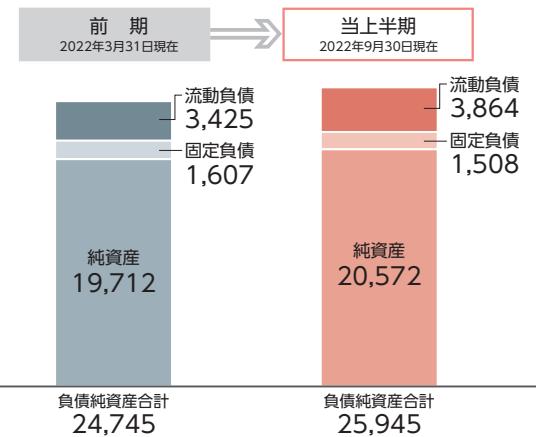


連結貸借対照表

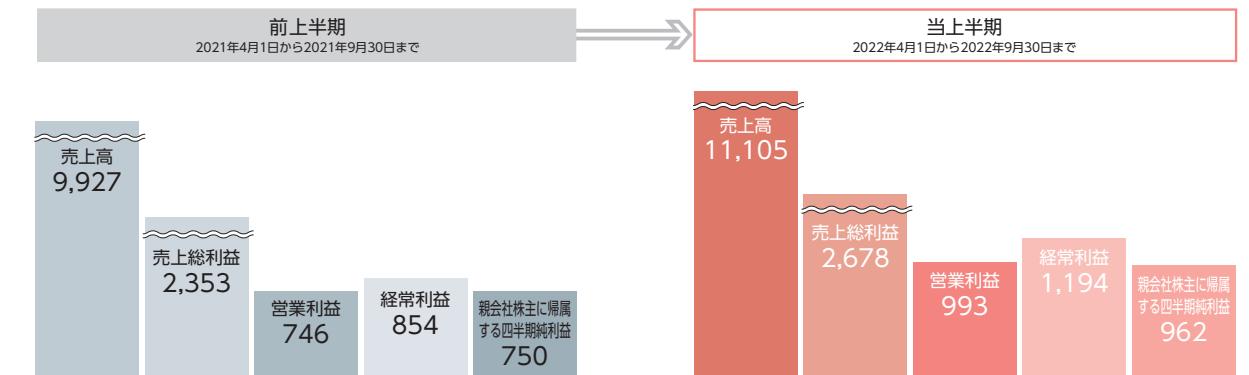
● 資産の部 (単位: 百万円)



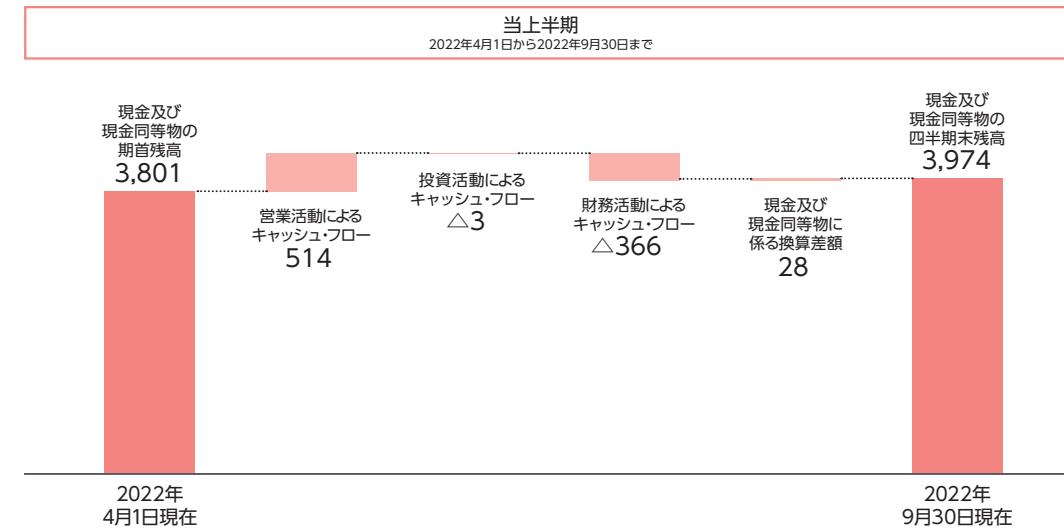
● 負債・純資産の部 (単位: 百万円)



連結損益計算書 (単位: 百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (単位: 百万円)



財務のポイント

● 資産

資産につきましては、流動資産で前期末に比べ6.9%増加し、12,236百万円となりました。これは主に棚卸資産の増加等によるものであります。

また、固定資産は前期末に比べ3.1%増加し、13,709百万円となりました。これは主に投資有価証券の増加等によるものであります。

● 負債

負債につきましては、流動負債で前期末に比べ12.8%増加し、3,864百万円となりました。これは主に未払法人税等の増加等によるものであります。

また、固定負債は前期末に比べ6.2%減少し、1,508百万円となりました。これは主に長期借入金の減少等によるものであります。

● 純資産

純資産につきましては、前期末に比べ4.4%増加し、20,572百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加等によるものであります。

会社概要

商号	フジ日本精糖株式会社
英文名	Fuji Nihon Seito Corporation
設立	1949年(昭和24年)7月
資本金	1,524百万円
従業員数	55名
本社所在地	〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町6番7号 電話 03(3667)7811(代表)
清水工場	〒424-0924 静岡県静岡市清水区清開一丁目4番10号 電話 054(334)5353(代表)
横浜共同生産工場	太平洋製糖株式会社 〒230-0053 神奈川県横浜市鶴見区大黒町13番46号 電話 045(501)0511(代表)
子会社	協立食品株式会社 ユニテックフーズ株式会社 Fuji Nihon Thai Inulin Co.,Ltd. DAY PLUS (THAILAND) Co.,Ltd. FUJI NIHON (Thailand) Co.,Ltd. UNITEC FOODS KOREA Co.,Ltd. 株式会社Tastable
関連会社	太平洋製糖株式会社 マ・マーマカロニ株式会社 南栄糖業株式会社

役員

代表取締役社長	櫻田 誠司
取締役常務執行役員	関根 郁也
取締役上席執行役員	吉水 あつ子
取締役	高橋 明彦
取締役	曾我 英俊
取締役	和田 哲義
常勤監査役	梶田 伸哉
監査役	上平 徹
監査役	藤田 世潤

執行役員

常務執行役員	大口 真央
上席執行役員	和田 正
上席執行役員	新野 真人
執行役員	大橋 高弘

監査法人

会計監査人 有限責任監査法人トーマツ

株式の状況

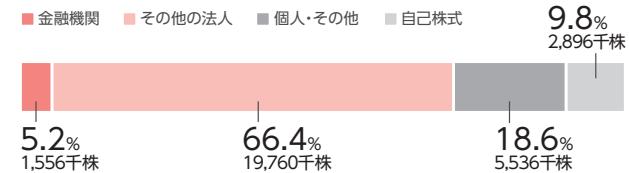
発行可能株式総数	110,000,000株
発行済株式の総数	29,748,200株
株主総数	17,070名

大株主

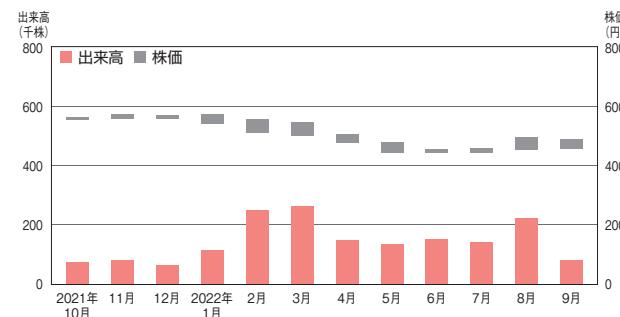
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
双日(株)	8,153	30.4
和田製糖(株)	2,455	9.1
鈴与(株)	1,902	7.1
豊田通商(株)	1,229	4.6
(株)静岡銀行	792	2.9
(株)榎本武平商店	758	2.8
小倉運輸(有)	669	2.5
新潟県砂糖卸荷受商業協同組合	600	2.2
(株)サカタのタネ	563	2.1
東京海上日動火災保険(株)	447	1.7

(注)持株比率は自己株式(2,896千株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



株価の推移 (東京証券取引所実績)



CSR活動のご紹介

Fuji Nihon Thai Inulin Co.,Ltd.

タイ国にはオークパンサー(雨期に僧侶が寺にこもる「雨安居」明け)という仏教行事があります。従業員有志により、お菓子とココナッツミルク豆腐入りを配布して、地域住民の皆様との交流を深めております。



DAY PLUS (THAILAND) Co.,Ltd.

タイ国チャオプラヤ川の氾濫で孤立したアユタヤ北部の被災地域に、ボートに乗って直接パンを配布しました。ロングライフパンは災害備蓄用食品として重宝されております。



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

基準日 3月31日
なお、中間配当を行う場合は9月30日

定時株主総会 毎年6月開催

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座 口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711（通話料無料）
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

上場取引所 東京証券取引所

公告方法 当社のホームページに掲載いたします。
公告掲載URL <https://www.fnsugar.co.jp>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

【お知らせ】

- (1) 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取次ぎいたします。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

 **フジ日本精糖株式会社**

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町6番7号
TEL : 03-3667-7811 <https://www.fnsugar.co.jp/>

**UD
FONT**

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。